

(別紙 2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 18 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270500772		
法人名	有限会社 タケタニ		
事業所名	グループホーム「まごころ」		
所在地	長崎県大村市古賀島町 120-15		
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 7 日	評価結果市町受理日	平成 27 年 1 月 5 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成 26 年 12 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

- ・緩やかなりハビリ階段を上れば、大村湾に浮かぶ長崎空港が心を癒してくれます。
- ・平坦な立地で散歩コースとしても最適です。地域の皆様の温かさに包まれた暮らし。毎年の地元町内会の夏祭りへも歓迎して頂いております。
- ・日常的なレクレーションと機能訓練の実施。個々の能力と状態に応じて、個別・グループでのレクを行い工夫しています。認知症抑制のため手作業や役割の提供。
- ・季節に関らず、可能な限り外出（日光浴・外気浴・散歩等）の支援。
- ・意向や嗜好に沿った楽しみ会の実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

当ホームは、開設 10 年を経て更に、介護・看護の質が向上されている。立地・利便性と景観の良さに反して、騒音問題に悩まれていたが、入居者家族への説明と協力を得て、二重ガラスの防音工事に取り組まれている。入居者は、テレビの視聴を楽しみ、心地よい安眠を得られている。職員は、入居者一人ひとりと対話を心掛けて、喜びと自信で生きがいのある生活を支援できるように、個々の残存機能を見出したケアに取り組まれている。外部講師の協力により、歌の指導・美容エステなど楽しまれて、近隣・地域の協力関係も良好に保持されている。職員は、入居者一人ひとりを把握して、看取り支援を尽力され、食（献立パターンに沿ったバランス食）及び介護・看護（入居者一人ひとりの個性・状況に沿った介助の工夫

と詳細な記録〉の重要性を意識して、共有に努められている。地域・入居者・家族・職員と親睦を深めた交流も取り組まれているが、今後更に、家族の満足に向けたアンケートの実施を考慮されている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームには、2つの理念があります。毎朝朝礼では全員で唱和を行い、意識してケアにあたるように努めている。ホーム研修会でも理念について学ぶ機会を設けています。	職員は、家庭的な安心と尊厳の暮らしへの支援に向けて、入居者にとって大切な日々に関わる職員の意識を笑顔で対話を心掛け、残存能力を導き出して喜びと自信を与えよう支援に努められている。職員は、入居者一人ひとりの個性が生きる支援に理念の共有を図り、連携力を向上させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の祭りへの参加、公民館の清掃活動、近所の散歩において地域住民とふれあう機会も多い。慰問や歌の教室、またボランティアの受入れなど、率先して外部の方との交流を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な会合や運営推進会議で認知症の啓発や理解に努めています。高校や専門学校の介護実習を積極的に受入ています。又、県の人材育成制度に基づき未経験者の採用も実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、市の職員、入居者家族により構成。様々な議題の他、消防訓練や敬老会、地域行事への参加等において意見・感想・評価を頂きそれを基にサービス向上に活かしています。	運営推進会議の構成員も参加の避難訓練実施後、消防署職員も参加の会議で消防訓練の反省指摘事項など話し合い、次回の訓練に繋がられている。また、ホテルで開催の敬老会に地域の協力者、入居者、家族、職員多数の方に参加頂き、地域交流・家族支援に感謝の意を深めて、和やかな雰囲気と信頼関係の構築の共有を図られている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市の担当者とは、相談や問合せ等で連絡を取り合っています。又、介護相談員の受入れ、市の職員の運営推進会議への参加を頂く等各担当者とも交流を行い協力関係を築いています。	相談内容によって、市の担当職員と協力関係を保ち、生活保護手続きや更新手続きを取り組まれている。介護相談員の発行紙の内容を参考にしたり、相互評価の取り組みや包括と空き情報の連携を持たれている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内研修及び外部研修への参加の機会を作っています。玄関の施錠は夜間のみでセンサーを活用。ベッド柵の使用も適切に実施。状況によりベッド下に安全マット（敷布団）を敷いています。</p>	<p>日中の施錠はなく、入居者の心に寄り添い、気持ちに付き添って「家に帰りたい」思いを支援したその後、入居者は落ち着いて過ごされている。職員は、言葉かけや対話を心掛けて、一人ひとりの個性を大切に拘束のない支援に努められている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束と共にホーム内での研修を実施しています。知識を深め日頃行っている些細な対応を見直し高齢者虐待防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>自己啓発や外部研修の中で権利擁護に関して学ぶ機会があります。それにより制度の必要性を学びます。必要に応じ、職員へ説明するなど支援しています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、利用契約書、重要事項説明書の内容をしっかり説明し同意を頂いています。制度の改訂や諸事情に伴う利用料等の変更時においても事前に十分な説明を行っています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、日頃の様子等を報告し、ご家族の話を聞くようにしています。又、ケアプラン作成時には、ご家族の意見や要望を伺い援助内容に活かしています。入居者様の意向に沿った楽しみ会も実施しています。</p>	<p>職員は、入居者の日常的な様子（おやつ作りや歌の時間の笑顔の表情）を写真撮影して、家族が訪問の折にアルバムを見て頂き、会話のきっかけと家族の安心に繋がられている。敬老会への参加や訪問を働きかけて、毎月1回預り金の収支報告をされている。</p>	<p>開設10年の経過を機会に、管理者の対応・職員の関わりなど家族に何う取り組みとして、家族アンケートの実施を考慮されている。更に向上されることを期待したい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼やホーム研修会の中で意見を聞いています。又、個別の面接の機会を定期的に設けており、話しやすい環境作りにも配慮しています。スタッフからの意見を参考に業務の改善等に活かせるよう努めています。</p>	<p>職員は、スタッフ会議で懸案になっている入居者の身体介護の気づきや食事の内容を話し合い、申し送り内容などを必ず自分の手帳に記入して、職員目標にそったケアを共有されている。管理者は、家庭の実状の把握や資格取得を支援して、休息の場を設けられている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務態度や資格取得等、個々の実績等を把握するよう努めている。勤続年数や資格取得による給与体系を確立し意欲向上に繋げています。スタッフルームも完備し休憩や勉強部屋として活用。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に配慮した勤務シフト。制度による未経験者の雇用。新人研修には指導職員が個別に対応し技術・業務の習得に努めている。個々のキャリア、力量に応じた研修を案内し受講を促している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者は、連絡協議会等、職員は市内のGHスタッフ研修会への参加を通じて同業者との交流を深めています。又、相互評価や実習で他のホームへ訪問する機会もあり、質の向上やネットワーク作りへ活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期では本人へ声かけや傾聴を多く持つようにしています。新しい環境や他の入居者、職員へ慣れて頂く様全員で取組んでいる。事前に本人の生活歴や家族環境、好き嫌いなどの情報を共有しケアに生かしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約時、理解頂けるよう十分な説明を行います。その際、ご家族の状況や思いを把握します。初期段階では、ご家族とまめにコンタクトを図ります。ご家族と共に支援を行えるよう関係作りに努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用の相談や見学に来られた際、十分に話を伺い、本人の状況によっては必要で適したサービスの提案を行います。状況に応じ他事業所ケアマネと連携し適切な対応に努めています。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で職員と入居者様との関係作りを行っている。尊厳を守りつつ親しみのある言葉でケアを実践。一緒に出来る事は、共に行い掃除・洗濯・料理等アットホームな関りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、連携を密にし、状況により電話や面会時に報告や相談を行っている。又、家族からの要望をケアプランに反映しています。可能な限り、ふれあう機会を設けて頂き、共に支援していくような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	墓参りや法事、実家へ出かける等馴染みの場所や活動は、可能な限り家族の支援を頂きながら継続して頂いています。家族以外の友人や近所の方の面会も歓迎しています。	職員は、入居者と一緒に近隣へのドライブに出かけて、以前働いていた馴染みの場所の店主と出合いの支援をされたり、近隣を散歩して馴染みの関係作りにも努められている。家族の支援により、家族との外食や、関係継続を支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関りは、常に注意深く観察している。相性や能力等の差を考慮し、レクや作業において注意を行っている。能力が高い方が、できない方へのお世話も見守りつつ実施。必要に応じ食事の座席変更も行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み ○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去の場合でも面会や家族へ連絡を取る等して状態の把握に努め、本人の経過に応じた家族への支援を行うようにしている。状況についても情報を共有し出来るだけの支援を全体で努めるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者様全員と言葉を交わし、思いや意向を把握しています。意思表示が困難な方は、その表情や行動で推し測り、検討し浴えるように対応している。意向に沿った食事や楽しみ事の実施に繋がっています。	職員は、介護スタッフ基本理念にそって、声掛け、対話、観察の介護に意識を持ち、関わり工夫に努められている。受診時のドライブの折や、入居者一人ひとりの個性を大切に、歌詞カードで言葉を思い出して頂ける支援で楽しみながら、残存能力を伸ばし自信を持って過ごして頂けるように取り組まれている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、ご家族関係等の情報をご家族や以前のサービス事業所から確認します。事前に勉強会を開き、今後のサービス提供に必要な情報を説明。スタッフ全員で共有し把握できるように努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護看護日誌を作成し、一人ひとりの行動、心身状態や援助内容を明記している。職員間でしっかりと連携や申し送りを行います。又、休み明けの職員は事前に記録等に目を通してから実務に入っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、常に入居者の状態把握を行っている。毎月、対象者のアセス等を提出。ケアマネは、その情報を基に原案を作成。そして本人や家族の思いを踏まえケアプランを作成する。本人・家族・職員の思いが援助内容に反映したものになっている。	介護計画は、生活歴や家族の情報と利用者の状況を把握して、スタッフ会議で援助内容を話し合い作成されている。援助計画に沿って家族の要望や実践が反映しているか課題を追及し介護・看護記録も参考に更新時や随時の見直しをして共有の支援に繋がられている。介護・看護記録は、夜勤・日勤単位で利用者の状況を詳細に確認して記録されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成。1日の様子やケアの実践内容が細かく明記できる。それぞれのプランに沿った援助内容が実践に繋がるよう書式を工夫。いつでも閲覧できるよう保管し、情報の共有とプランの見直しに生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年齢や好み、能力等の違いから、状況に応じ個別やグループ別の活動やレクの提供を行っている。レクの内容も入居者様のニーズや能力等を把握した上で新たな事を試行錯誤し実施中。ニーズに対応した楽しみ会も適宜実施しています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の構成員には、町内会長や民生委員の方等が含まれ、会議等を重ね認知症への理解を深めています。火災時の近隣住民との応援体制も確立。歌や美容の先生等地域の皆様から多くの支援を頂いています。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医の受診を希望された場合、基本的に応じ、ご家族の支援を頂きつつ対応している。医師との連携を密にし関係作りにも努めています。その他必要に応じ、各種専門医の受診も柔軟に対応しています。	医師の往診により、利用者の身体状況の把握に努め、家族に報告をされている。利用者の状況に変化があれば必要に応じて、かかりつけ医の看護師及び職員看護師へ相談のもと24時間の医療支援体制を保持されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に体調や些細な変化も見逃さず観察する事を意識付けてケアにあたっています。異常に気付いたら、看護職員・管理者へ報告し日誌への記録を行います。そして適切な医療へと繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、日頃より連絡を密にし、関係を築いている。入院時は、情報提供を行い、入院中は各職員が連携して面会に伺い、医療機関やご家族と回復状況等について情報交換しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、重度化や看取りの指針について説明を行い会議録を作成。緊急時や看取りに関する同意書にてご家族の意向を確認している。重度化された場合、主治医の指示を含め検討し、ホームとして可能な対応についてを十分に説明を行っています。	看取りの体制作り看取り対応マニュアルを作成後、スタッフ会議の勉強会や自主訓練（心肺蘇生・気道異物の除去）を実施、利用者の寝息確認・寝返り支援を看護記録に記載、医師・看護師と連携を図り家族の思いに添える看取りケアに取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外で救急対応の研鑽を行っています。消防署にて心肺蘇生法やAEDの研修、ホーム内では、定期的に研修会や想定した自主訓練を実施。救急マニュアルも完備し、緊急時対応についても備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年間2回の消防訓練。避難方法の見直しや自主訓練を定期的の実施。訓練での指導に基づくマニュアルの改訂も随時実施。災害時に備え、避難場所の確保、食料飲料水の備蓄を行っている。入居者の情報を一冊に纏めた緊急ファイルも完備。	長年の地域の協力者も参加の消防署立ち合いで夜間想定訓練を実施後、運営推進会議を取り組み、議題として、訓練の反省事項（迅速な通報・初期消火の心構え）などについて話し合い、自主訓練（消防・応急）を月2回以上実施されている。職員が地域消防に加入され、防災計画及び防災体制への意向もうかがえる。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの尊厳を重視し、言葉かけは、敬語を基本としています。丁寧な中にも、親しみのある言葉を使うよう心がけています。特にプライバシーには配慮を行い、さり気なく、自己決定しやすい言葉かけを行っています。	入居者一人ひとりの人柄、その人そのものを大切に、入浴介助の同性介助やバスタオルの使用などでプライバシーへの配慮と美容エステによる癒しも心掛けられている。日常的に入居者を見守り一人にしない関わりで言葉かけを留意されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをまめに図り、誰もが意思表示が出来るような関係作りに努めている。個々の症状や個性を十分理解した上で、相手に応じた支援を行っています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやペースを尊重し対応。睡眠状況や体調により起床や食事時間を調整したり、入浴も希望により毎日対応。意思により柔軟な対応を行う。又希望に沿った献立や役割（家事等）も適宜提供している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に応じ行事等の際はおしゃれや化粧の支援を実施。毎月ボランティアでエステの先生方来所、肌の手入れやお化粧で満足した時間を過ごして頂いています。本人らしさや好みを把握して支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じた調理や後片付けの参加の場を提供している。季節や好みを取入れた献立作り、演出を凝らした料理（お好み焼き焼・手作りおやつ等）も適宜実施し楽しみの一つとしています。	入居者と日常的な会話の中で聞き取り、野菜の下処理やハンバーグ作りに参加して頂き、楽しみな食事に繋げるとともに入居者が抹茶を点てられるなど学びの機会も得られている。摂食状況に応じた個別対応や誤嚥予防も取り組まれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況は、毎食時観察し記録。入居者ごとの適切な食事量を把握しバランスの良い食事作りを行っています。水分補給は、1時間毎を基本とし、夜間においても状況に応じ、こまめに対応しています。	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力や口腔内の状態に応じた方法にて支援を行っている。歯ブラシ・歯間ブラシ、口腔内専用ウェットシート等、様々な方法を入居者の状態に応じ取入れるなど、細やかに対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	様子を察知し配慮した対応。習慣やペースに応じ、ゆっくり排泄できるよう支援。症状の進行により管理が必要な方へは、排泄パターンに応じ案内等を支援。又、変化に応じ下着や排泄場所等の検討も随時行っている。	入居者の排泄状況は、介護・看護日誌に排泄の確認・排便の有無など、チェック方法や具体的内容の記載で尿とりパットを使用して、自立誘導を支援されている。職員は、日々の状況の変化に留意しながら、時間おきの水分補給に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を徹底し記録と連携を行い、排便状況を共有しています。便秘対策として、ラジオ体操等の軽運動や機能訓練、こまめな水分補給、ヨーグルト等の乳製品や食物繊維の多い料理の提供を実施しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	衛生保持のため回数等を決めているが、希望あれば毎日支援している。体調や予定、意思等により柔軟な対応をしている。又、失禁により追加の支援も実施。症状やADLに応じた2人介助も行っています。	訪問時、午後からの入浴支援に浴室を暖かく準備して、同性介助や週2回程度の入浴を支援されている。毎日の入浴も可能で、入浴拒否の場合無理強いせず、声掛けの工夫や毎日の陰洗と皮膚の異常観察も努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調等を考慮した就寝の支援を行っている。就寝前、相手に応じた関わりを行い、温湿度等の環境面にも配慮している。又、日中は、出来るだけ活動を多くし、夜間の安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服薬している薬は、各自資料等で把握に留意。薬の変更等に応じた確に申し送りを行い共有と理解に努めています。副作用についても申し送りし、経過観察し症状の記録と連携を行っている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>勉強会や資料で生活歴、趣味・嗜好を把握。能力や好みに応じた作業や役割を提供している。状態の変化により作業内容や量を変え、負担にならないよう支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的に散歩や外気浴の援助を実施。季節感を味わうため外出支援を積極的に取り入れている。意向に応じた外出（ドライブや買物等）や家族とのふれあいの機会（外食や受診等）も協力の上定期的に行っています。</p>	<p>家族の訪問時、家族と一緒に外出される状況を職員がゆったりと対応する姿勢を拝見。入居者は、家族の協力で外出の機会もあり、理念「地域の皆様とともに」にそって、地域の行事への参加や近隣の散歩で交流を持たれている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>状態（理解・認知力）やご家族の意向により対応。ご家族から小口のお金を預らせて頂き、必要に応じ身の回り品等の購入にあてています。買物や外出時に必要額を持って出かけ、好みの買物も支援しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の要望や必要に応じ、随時電話や手紙でのやり取りを支援。遠くの家族・親戚様からお手紙を頂いています。電話や手紙のやり取りで精神的にも安定されています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用しやすい配置で家庭的な物を利用。装飾で季節感を出しています。台所は、オープンで食事作りの音や臭いを感じて頂けます。食事の配席は、状態により検討し変更も行っています。</p>	<p>共用空間もガラス戸の防音工事によってテレビの音量も聞き取りやすく、利用者は、食後に和室でリラックスして連続ドラマを一緒に楽しまれている。2階への階段は、筋力維持の場に繋げ、景観の良い階上の部屋でも寛げるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>2階の談話室は、景色も良く最高のロケーションです。気分転換や景色を楽しむ空間として、気の合う者同士や一人でも過ごすことができます。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは馴染みの家具や生活用品等、必要な物を自由に持ち込んで頂いています。個々の状態に応じベッドや家具の配置。ぬくもりある空間作り。それぞれが、思い思いに一人でゆっくりできるような配慮をしています。	居室は、畳とフローリングでガラス戸の防音及び壁紙張替工事で明るく、家族も宿泊できる広さがあり、温湿度計の設置で室温を管理されている。寝具はリースで毛布や利用者に思いを寄せる家族の心温まる思いの品物を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	座敷は、腰掛けに最適な高さ(40cm)。車椅子移動や歩行に支障なく生活し易い配置。非常時の避難へも考慮。居室のベッドやポータブルトイレの位置は、状態の変化に応じ配置を検討。自立と危険防止に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない